

エンドウ



豆を食べる“実エンドウ”と豆が大きくなる前に若取りし、さやごと食べる“サヤエンドウ”とがあります。完全に熟して豆として収穫するのか、やわらかい豆の状態では収穫するのか、さやごと食べられるくらいに若取りするのかわりがあります。

作型

寒さには強いが、生長するにつれて耐寒性がなくなってくる。厳寒期を迎える前に敷きわらをするとともに、北側を土寄せして風よけをする。
春の生長が盛んな時期には、月に1回追肥すると草勢が維持でき収穫期間を長くすることができる。

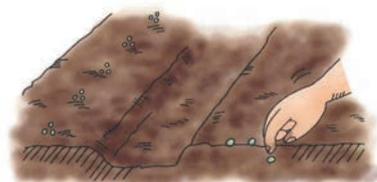
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
普通栽培						■ ■ ■				○ ○			さや取り(成駒・白花兵庫絹さや・赤花絹さや) 実取り(ウスイ・グリーンピース) スナック(ジャッキー・あまいエンドウ)

○：種まき ■ ■ ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり aあたり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	20kg
BMようりん	2kg
植え付け1ヶ月前に土とよく混合	
元肥 aあたり	
油粕	10kg
畝立時施用	

- 1条植え：畝幅120cm 株間40cm
- 1ヶ所2~3つぶまきとし、薄く(2cm)覆土する。
- 種子を20℃の水に2~3時間浸し、十分水分を与えてから播種すると発芽しやすい。

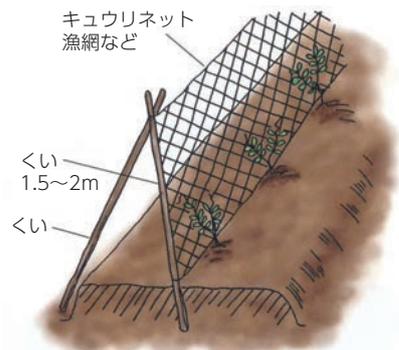


間引き

- 草丈が7~8cm位になったら1ヶ所2本立てにする。
- 間引き後、保温のため敷きわらをする。北側を土寄せして風よけを作る。

整枝・土入れ

- 巻きひげが発生するようになったら、つるがからみやすくするためにキュウリネット、漁網等を張る。
- 枝が混んできたなら、莖葉に十分光が当たるようにふところの枝を整理する。



追肥・土寄せ

- 3月中旬：野菜専用肥料4kg/aを施用後、軽く土寄せを行う。

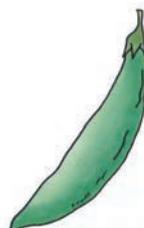
防除

病害虫名	耕種防除
アブラムシ	光反射テープを畝上に張る
ハモグリバエ	
うどんこ病	風通しを良くする

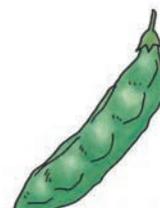
収穫



実エンドウ
子実がよく充実し、さやがふくれて表面が光沢を失い、ざらざらするようになったときに収穫する。



サヤエンドウ
さやが平らで、外から子実の形があまりはっきりわからないうちに収穫する。



スナックエンドウ
若さやのうちから収穫できるが、子実が大きくなって、さやの断面が円形になるくらいふくらんだ頃に収穫時期。

農機具管理

稲の収穫も終わり、多くの農業機械は長期格納の時期になります。農機も適切なメンテナンスを行うことが長く使えるポイントになりますので実施しましょう。



燃料の管理

長期格納時、農機具内の燃料タンクを「カラ」にするのか、「満タン」にするのかは、燃料の種類で決まります。

<p>ガソリン</p>	<p>ガソリンは揮発性があるため、密閉容器に入れておかない限りどんどん揮発していき、ガム状物質という黄緑色や褐色のカスが残ります。このガム状物質はエンジンの故障の原因となります。また、ガソリンはポリ容器を溶かす性質を持っています。したがって、保存するときは金属製か専用の溶けない容器で密封できるものに入れておく必要があります。保管場所は日のあたらない涼しいところにしましょう。</p>
<p>軽油</p>	<p>軽油もガソリンと同じ危険物なので、保管方法も同様に注意が必要です。ディーゼルエンジンは精密にできているため、水やサビの混じった軽油を使っていると、大きな故障の原因となります。また、軽油は凍結する性質を持っており、冬場はエンジンがかからなくなることがあります。これを防ぐには凍る前に灯油を混ぜてエンジンをしばらくかけておくといでしょう。</p>
<p>混合油</p>	<p>混合油も揮発性があり、そのままの状態でおいておくと濃度が濃くなり、粘りが出てきます。また、オイル分とガソリンが分離して質が劣化するため長期保存には向いていません。特にペットボトルでの保管は、絶対にしないでください。保存する場合は密閉できる保存容器を使用し、夏場で1ヶ月、冬場で2ヶ月を目安としてください。</p>
<p>燃料タンク内の燃料管理</p>	<p>ガソリンを使用している農機具を長期保存する場合は、燃料タンク内に残っているガソリンを抜き取って「カラ」にしておいてください。また、気化器がある場合は気化器内のガソリン燃料コックを「閉」にして、ワンタッチドレインやドライバーを使って抜き取ります。古いガソリンが残っていると、エンジン不調のトラブルを引き起こします。</p> <p>軽油を使用するディーゼルエンジンの場合、長期保存するときはタンク内の燃料を「満タン」にしておきます。カラにしておくことと日中と夜間の温度差で燃料タンク内に結露が起り、タンク内のサビ付きの原因になったり、水が溜まる場合があります。燃料に不純物が含まれるとエンジンに不具合が生じるため、タンク内の燃料管理に気をつけましょう。</p> <p>混合油は長期間使用しない場合、必ず燃料を抜きましょう。燃料コックを止めて燃料タンクが「カラ」になるまでエンジンをかけておいてください。燃料が残っているとタンク内のサビ付きの原因となります。</p>

大型機械類のメンテナンス

トラクターやコンバインなど、特にバッテリーを持つ機械は使用しない時期も定期的にメンテナンスしましょう。整備不良のまま使用すると、思わぬ事故を引き起こす原因となります。



<p>格納時のメンテナンス</p>	<p>農繁期には頻繁にメンテナンスを行う大型機械類でも、農閑期は放置される可能性が高くなります。そのため、シーズン前の定期点検と、シーズン終了後の格納点検、特に洗浄清掃が重要です。点検・管理の基本は、掃除、オイル交換、バッテリー管理の3つです。</p> <p>機械にこびりついたわら交じりの泥や、巻きついた雑草やわらくずなどのゴミは必ず取り除いてください。残っていると、ネズミなどが巣くう原因となり、配線をかじられることもあります。機械の周りに籾殻などがあつたら要注意。ネズミが機械に侵入した痕跡です。配線の被覆がはがれていたら、絶縁テープで補修しておいてください。また、田植機の植付部やコンバインのクローラ（走行用キャタピラー）などに付着した泥は水で洗い落とし、乾いた布でふき取っておきましょう。</p>
<p>バッテリー</p>	<p>農閑期は、自然放電を防ぐためにバッテリーを外すのが理想ですが、部品を広げて置く場所の確保や取り外しが困難で、付けっぱなしのケースがあります。その場合は、バッテリーコードのマイナス端子を外してください。放電の多い夏場は月1回、冬場は2ヶ月に1回くらいを目安にエンジンをかけ、バッテリーの充電をしておきましょう。エンジンにオイルが回り、サビ防止にも繋がります。取り外したバッテリーは、日の当たらない場所に保管してください。</p>
<p>格納</p>	<p>農機具を格納する場合は、平坦な場所に置きましょう。トラクターや田植機はクラッチ板の固着を防ぐために、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで固定してください。「切」状態にしていないと、クラッチが切れなくなる恐れがあります。田植機は植付け部を、トラクターはロータリーを一番下まで下ろして保管しましょう。コンバインは、刈取部を一番下まで下ろし、先端にバンパを取り付け、駐車ブレーキをかけて歯止めをして保管します。</p> <p>ラジエーターを冷却水のままで保管すると、エンジンの凍結割れをおこす恐れがあります。不凍液が入っているか確かめてください。</p>

農機具の故障・農機具部品の取り寄せなどについては、JAハリマ農機センター(72-0305)へお問い合わせください。